

第2章 明朝体と筆写の楷書との関係について（具体例）（案）

1 筆写の楷書と明朝体の歴史について

筆写の楷書は、後漢末ごろに隸書の補助書体であった行書を直線的に整えて生み出されたもので、一点一画をきちんと書く書体をいう。それ以降、隋・唐の時代にかけて、その端正さや読みやすさなどから、主たる書体の一つとして発達し、古くは「真書」「正書」などとも呼ばれた。現代の日本でも、公の書類などに手書きする際には、楷書で書くよう求められることが多い。一方、明朝体は明（1368－1644）の時代に、印刷のための^{はんぎ}版木を彫刻するのに適した、また、印刷文字として読むことに特化された、楷書に基づく書体として用いられたものである。このように、明朝体と手書きの楷書字形は発展の過程が異なるものであって、それぞれに独自の特徴や習慣があるため、両者の間で字形に違いが見られる場合も少なくない。

唐代以降、それまで主に筆で手書きされていた漢字が、版木に彫って印刷されるようになり、明の時代に入ると、出版印刷業の発展とともに、以前よりも木版印刷に速さや効率求められることとなった。彫りやすい字形が追求された結果、点画を直線化し、横画と縦画をなるべく直角に交わるようにすることで、微妙な曲線や角度が表れるのを避けるとともに、文字を縦に並べたときに読みやすくなるように、縦画を太く、横画を細くし、いわゆるウロコやヒゲを付けるなどの様式化が行われた。このような印刷に用いられた特有の字形が明朝体である。

曲線状の払いや撥ねなど幾何学的模様が調和した洗練されたデザインを誇る明朝体は、18世紀のフランスにおいてローマン体とうまくマッチする漢字の金属活字の書体として作られるようになった。19世紀初め頃に、この明朝体活字はアジアにもたらされ、中国を中心としたキリスト教布教のためにマラッカやマカオなどで聖書などの活版印刷に用いられるようになった。ウィリアム・ギャンブル（ガンブルとも William Gamble）は、明朝体活字に大きさの段階を設けた号数活字を導入するなど改良を加えて、印刷の質と効率を向上させた。1869年、ギャンブルは長崎に設立された活版伝習所に招かれ、活字の鑄造、組版の技術を伝えた。翌年、中国の明朝体をもとに日本の活字製作が始まり、1873年には築地活版製造所が設立された。当初、母型の製造技術は拙く、種字彫刻も中国に依存していたが、1884年以降はバランスのとれた美しい独自の書体が整備されていった。これが「築地体(築地明朝体)」と呼ばれ、近代の明朝体活字の源流となった。この築地活版製造所から活字を購入して、1876年に創業したのが秀英舎で、翌1877年には中村正直^{まさなお} 訳『改正西国立志編』を、日本で初めて、用紙からすべて純国産による活版洋装本として製作した。その後は自社で活字を鑄造するようになり、新たな明朝体活字を持つようになった。これが「秀英体(秀英明朝体)」と呼ばれるもので、築地体(築地明朝体)よりも縦線

のやや細いものであった。こうして、版木から金属の活字へと発展していく過程で、正方形を埋めるような字形へと変化していくとともに、近年では情報交換用にデジタル化されたフォントとしても、デザイン上様々な特徴を凝らしたものが次々と作られてきている。

以上のように、明朝体は、印刷用の文字から活字の文字へ、さらに、アナログの活字からデジタルフォントへと変化し、細部で微妙に異なる様々な字形を持つに至っている。今日において手書きの楷書体と明朝体とに字形の違いが見られるのは、こうした経緯を背景とするものである。

2 印刷文字（明朝体）のデザインについて

常用漢字表では、個々の漢字の字体を、便宜上、明朝体のうちの一種を例に用いて示している。これは、現在、印刷文字として明朝体が最も広く用いられていることによる。

一般に使用されている各種の明朝体には、同じ字でありながら、微細なところで形の相違の見られるものがある。しかし、それらの相違は、いずれも書体設計上の表現の差、すなわちデザインの違いに属する事柄であって、字体の違いではないと考えられる。つまり、それらの相違は、字体の上からは全く問題にする必要のないものである。以下に、分類して、明朝体におけるデザイン差の例を示す。

なお、ここに挙げているデザイン差は、現実には異なる字形がそれぞれ使われてきており、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断したものである。すなわち、実態として存在してきた異字形を、デザインの差と、字体の差に分けて整理することがその趣旨であり、明朝体をはじめとする印刷文字の字形を新たに作り出す場合に適用し得るデザイン差の範囲を示したのではない。また、ここに挙げているデザイン差は、おおむね「筆写の楷書字形において見ることができる字形の異なり」と捉えることも可能である。

（１）へんとつくり等の組み合わせ方について

漢字のへんとつくり等の組合せに、以下に挙げるような相違がある場合にも、極端な場合を除いて、字体の違いと考えなくてもよい。

① 大小、高低などに関する例

↓ ↓ ↓ ↓ ↓ ↓
硬 硬 吸 吸 頃 頃

② はなれているか、接触しているかに関する例

↓ ↓ ↓ ↓
睡 睡 異 ← 異 ← 挨 挨

（２）点画の組み合わせ方について

漢字の点画の組合せ方において、以下に挙げるような相違がある場合にも、極端な場合を除いて、字体の違いと考えなくてもよい。

① 長短に関する例

→ 雪 → 雪 → 雪 満 ← 満 ← 無 ← 無 ← 斎 ← 斎 ←

② つけるか，はなすかに関する例

 発  発
  備  備
 奔  奔
 溺  溺  溺
 空  空  空
 湿  湿  湿
 吹  吹  吹
 冥  冥  冥

③ 接触の位置に関する例

 岸  岸
 家  家  家
 脈  脈 脈 脈
 蚕  蚕 蚕
 印  印  印
 蓋  蓋  蓋

④ 交わるか，交わらないかに関する例

 聴  聴
 非  非  非
 祭  祭  祭
 存  存
 孝  孝
 射  射  射

⑤ そ の 他

 芽  芽  芽
 夢  夢 夢 夢

(3) 点画の性質について

点画の表し方について，以下に挙げるような相違がある場合にも，極端な場合を除いて，字体の違いと考えなくてもよい。

① 点か，棒（画）かに関する例

 帰  帰
 班  班  班
 均  均  均
 麗  麗  麗
 蔑  蔑 蔑

② 傾斜，方向に関する例

考  考  考
 値  値  値
 望  望  望

③ 曲げ方，折り方に関する例

勢 勢 競 競 頑 頑 頑 災 災

④ 「筆押さえ」等の有無に関する例

芝 芝 更 更 伎 伎
八 八 八 公 公 公 雲 雲

⑤ とめるか，はらうかに関する例

環 環 泰 泰 談 談
医 医 継 継 園 園

⑥ とめるか，ぬくかに関する例

耳 耳 邦 邦 街 街 餌 餌

※ 上記の「とめるか，ぬくかに関する例」は，斜めの画に関するものである。明朝体のデザインにおいては，縦画をぬくような表現はなく，とめた形になっている。

⑦ はねるか，とめるかに関する例

四 四 配 配 換 換 湾 湾

⑧ その他

→次→次 →姿→姿

(4) 特定の字種に適用されるデザイン差について

「特定の字種に適用されるデザイン差」とは，以下の(1)～(5)それぞれの字種にのみ適用されるデザイン差のことである。これらは，平成22年の常用漢字表の改定において追加された漢字のうち，現実に異なる字形がそれぞれ使用されて

おり、かつ、その実態に配慮すると、字形の異なりを字体の違いと考えなくてもよいと判断したもののうち、その字形の異なりを他の字種、特に、昭和56年の常用漢字表に既に採用されていた字種には及ぼせないと判断した場合に、その実態に配慮して、このような扱いとしたものである。

したがって、印刷文字（明朝体）においては、それぞれに具体的な字形として示されているデザイン差を他の字種にまで及ぼさない。

- ① 印刷文字（明朝体）において、「牙」については、下記のようなデザインのバリエーションがあり得るが、「芽」「雅」「邪」など、他の常用漢字については、左の形（「牙」）の部分は用いない。

𪛗・𪛗・𪛗

- ② 印刷文字（明朝体）において、「韓」については、下記のようなデザインのバリエーションがあり得るが、「偉」「緯」「違」など、他の常用漢字については、中央の形（「韓」）の部分は用いない。

韓・韓・韓

- ③ 印刷文字（明朝体）において、「茨」については、上記のようなデザインのバリエーションがあり得るが、「凝」「姿」「諮」「次」「准」「凍」「冷」「冶」「凄」など、他の常用漢字については「恣」を除いて、左の形（「茨」）の部分は用いない。また、「恣」については、左の形（「茨」）の部分を用いる。

茨・茨・茨

- ④ 印刷文字（明朝体）において、「叱」と「叱」は本来別字とされるが、その使用実態から見て、異体の関係にある同字と認めることができる。「叱」については、下記のようなデザインのバリエーションがあり得るが、「七」「虞」「虜」「虚」「虐」「虎」「膚」「窃」「戲」「慮」「劇」「切」など、他の常用漢字については、右の形（「叱」）の部分は用いない。

叱・叱

- ⑤ 印刷文字（明朝体）において、「𪛗」については、下記のようなデザインのバリエーションがあり得るが、「𪛗」については、左の形（「𪛗」）の部分は用いない。

𪛗・𪛗

2 付 手書き文字のいろいろな書き方に印刷文字のデザイン差と共通するところがあるもの

「2 印刷文字（明朝体）のデザインについて」で見たデザイン差の分類については、おおむね「筆写の楷書字形において見ることができる字形の異なり」の分類として見ることも可能である。「2」の分類に従って、筆写の楷書字形における字形のバリエーションの例を以下に示した。

なお、ここに挙げた例のうちには、「4 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの」にも掲げているものがある。

（1）へんとつくり等の組み合わせ方について

① 大小，高低などに関する例

② はなれているか，接触しているかに関する例

（2）点画の組み合わせ方について

① 長短に関する例

② つけるか，はなすかに関する例

※ 「溺」は筆写の楷書では「 」のように書かれることが多い。

③ 接触の位置に関する例

④ 交わるか，交わらないかに関する例

⑤ そ の 他

(3) 点画の性質について

① 点か，棒（画）かに関する例

② 傾斜，方向に関する例

③ 曲げ方，折り方に関する例

④ 「筆押さえ」等の有無に関する例

⑤ とめるか，はらうかに関する例

⑥ とめるか，ぬくかに関する例

⑦ はねるか，とめるかに関する例

⑧ その他

※ 「次」の「にすい」型の部分の筆写では，左側のように点を打ってはねるような書き方は，主として活字特有のデザインをなぞったもので，右のように書く方が自然である。

3 明朝体に特徴的な表し方があるもの

明朝体の字形と筆写の楷書の字形との間には、以下に挙げるような漢字の構成要素及び漢字の例のように、いろいろな違いがある。それらは、印刷文字と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表し方の差であり、字形に違いがあっても、同じ字体として認めることのできるものである。それらを（１）～（５）に分類して示した。

（１）折り方に関する例

明朝体の点画の折り方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と筆写の楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

ア 「ム」「玄」のような形を構成要素に持つもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 筆写の楷書での書き表し方の例		
公	雲	去	公
玄	玄	糸	細

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例													
ム	育	雲	会	絵	扌	去	強	芸	公	広	参	至	私	始
	松	窓	総	転	伝	統	仏	弁	法	など				
玄	絵	紀	機	級	給	糸	係	経	結	潔	絹	玄	紅	細
	磁	終	縦	縮	純	織	職	率	孫	など				

イ 縦画のはねの表現に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例 — 筆写の楷書での書き表し方の例		
衣	衣	製	裏
良	眼	銀	良
辰	唇	振	震
氏	氏	紙	低

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
衣	衣 製 装 展 表 俵 裏 展 など
良	飲 館 眼 郷 銀 限 根 退 飯 養 良 朗 など
辰	唇 振 震 農 など
氏	氏 紙 低 底 など
民	民 眠 など
長	長 帳 張 など
その他	越 など

ウ 下ろした縦画を右に折る際の表し方に関するもの。

構成要素の例	明朝体の例	筆写の楷書での書き表し方の例
比	比一	階一 混一
𠂇	考一	号一 汚一
弓	引一	弓一
匚	区一	医一
直	直一	断一

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
比	階 混 比 批 陞 など
𠂇	考 号 汚 顎 巧 与 など
弓	引 弓 強 弱 第 張 弟 など
儿	微 頑 競 など
卬	仰 迎 など
留	貿 留 など
匚	区 医 など
直	直 植 断 など
その他	誤 など

(2) 点画の組合せに関する例

明朝体の点画の組合せ方に特徴的な表し方があるものとして、以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と筆写の楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例 — 筆写の楷書での書き表し方の例		
氷	永 —	求 —	康 —
豕	家 —	象 —	隊 —
人	人 —	欠 —	次 —
厶	派 —	脈 —	
北	背 —	北 —	

※ 「久」の明朝体に「久」のように3画目が2画目の角の辺りに接するデザインのものがあるが、筆写の楷書では「𠂇」と書き表すのが一般的である。

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例							
水氷	永	泳	求	球	康	泉	氷	など
豕	家	象	像	隊	など			
人	歌	欠	次	人	など			
厶	派	脈						
北	背	北						
その他	久	備	印	など				

(3) 「筆押さえ」等に関する例

明朝体の特徴的な表し方に「筆押さえ」があり、以下のような漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と筆写の楷書の字形との相違は、字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例 — 筆写の楷書での書き表し方の例		
史	史 —	使 —	吏 —
之	芝 —	乏 —	
入	込 —	入 —	

詮	詮一	喩一	
八	八一	公一	船一

※ 「詮」「喩」など，明朝体の「詮」とそれを手書きした際の「 」の字形の差異は，字体の違いに及んでいると考えられる場合がある。

（４）曲直に関する例

明朝体では，筆写の楷書では曲線で書かれることの多い点画を直線的に表す場合があり，以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と筆写の楷書の字形との相違は，字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例 ー 筆写の楷書での書き表し方の例		
子	学一	子一	好一
手	挙一	手一	
了	承一	蒸一	了一
矛	矛一	務一	

◇ 上記を含め，同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例									
子	学	季	教	好	孝	厚	子	字	熟	存
手	挙	摯	手	摩	など					
了	承	蒸	了	など						
矛	矛	務	など							
その他	極	呼	など							

（５）その他

上記（１）～（４）のほか，明朝体に特徴的な表し方があるものとして，以下のような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような明朝体の字形と筆写の楷書の字形との相違は，字体の相違にまで及ぶものではない。

構成要素の例	明朝体の例　－　筆写の楷書での書き表し方の例		
亅	近一	述一	連一
𠂇	遡一	遜一	謎一
笑	簡一	笑一	箱一
心	心一	総一	必一

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
亅	遺	運	遠	過	逆	近	週	述	進	選	送	造	速	退	達	追
	通	適	道	導	辺	返	迷	遊	連	など						
辶	遡	遜	謎	など												
笑	管	簡	筋	策	節	算	笑	築	答	第	笛	等	箱	筆	など	
	愛	惡	意	応	億	恩	感	急	憲	志	思	誌	心	誠	想	窓
心	総	息	態	忠	徳	念	悲	必	忘	など						

※ 「遡」「遜」「謎」など、2点しんにゅうを含む字を手書きする場合について、常用漢字表では「亅」と同様に「𠂇」と書くとされているが、戸籍や住民基本台帳に関する窓口業務等においては、常用漢字表における字体・字形の考え方とは異なった取扱いがなされる場合もある。窓口業務では、しんにゅうを含む字については、申請者が手で記載する際にも、1点しんにゅう（「亅」）と2点しんにゅう（「𠂇・𠂇」）との書き分けが行われる場合がある。そのような書き分けを行う場合を含め、2点しんにゅうの漢字を「𠂇・𠂇」のように書いたものを誤りとすべきではない。

なお、明朝体においては、1点しんにゅう（「亅」）と2点しんにゅう（「𠂇」）は別字体として扱われる。

4 筆写の楷書では、いろいろな書き方があるもの

筆写の楷書においては、以下に挙げるような漢字の構成要素及び漢字の例のように、字形に違いがあっても、同じ字体として認めることのできるものがある。それらを（１）～（６）に分類して示した。

（１）長短に関する例

漢字の点画の長短にいろいろな書き表し方があるものとして、以下ような漢字の構成要素及び漢字の例が挙げられる。ここに挙げるような長短の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 複数の横画がある漢字における、横画の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
舞		など
幸		など
天		など
三		など
夬		など
王		など
寺		など
新		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
無	無 舞 など	
幸	幸 報 執 など	
天	天 蚕 奏 など	
关	送 咲 など	
辛	辞 避 辣 など	
半	半 判 伴 など	
三	三 業 耕 実 着 など	
夬	春 奉 棒 奏 など	
残	残 浅 銭 など	

王	玉	皇	国	聖	全	程	班	宝	望	など
主	往	住	注	など						
青	情	青	清	晴	精	静	責	積	績	素 毒 麦 など
寺	寺	持	待	など						
新	新	親	など							
妻	妻	凄	など							
五	五	語	悟	など						
至	至	室	到	など						
卒	卒	率	など							
その他	寒	善	拌	垂	苦	案	章	満	など	

イ 上部に「一」、下部に「冂」又は「口」のような形をとる漢字における、上部の「一」の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
雨 南 市 百 車 戸		など
		など
		など
		など
		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
雨	雨	雲 雪 電 など
丙	病	柄 など
両	両	など
再	再	など
南	南	猷 など
甫	捕	補 浦 など
市	師	市 姉 布 など
百	百	宿 縮 など
商	商	など
商	適	敵 など
西	西	など

西	価	票	標	要	など
酉	酒	酸	尊	配	など
画	画	など			
顔	顔	頭	題	願	類 順 額 領 預 頂 など
豆	豆	短	など		
専	専	博	など		
車	運	揮	軍	軽	庫 車 転 輸 連 輪 など
束	束	速	整	など	
東	東	練	凍	棟	など
吏	使	吏	など		
更	便	更	硬	など	
亜	亜	悪	など		
卓	朝	潮	など		
戸	肩	所	戸	編	など

ウ 上下の部分によって構成される漢字の、上下の幅の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
出		など
その他		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
出	出 拙 掘 屈	など
その他	員 岸 署 星 置	など

エ 複数の縦画がある漢字における、縦画の長短に関するもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
川		など
世		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
川	訓 川 州 順	など

世	世 葉 など
---	--------

オ 画の長短が字体の判別に関わるものとして「土」と「土」,「末」と「未」が挙げられるが,これらが別の漢字の構成要素になっている場合に,必ずしも長短を問題にする必要のないもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
土	など
土	など

◇ 上記を含め,同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
土	喜 吉 結 穀 樹 志 誌 声 莊 装 売 など
土	園 周 遠 週 捨 など

※「土」と「土」は,漢字の狭い部分にはまるような構成要素として用いられる場合には横画の長短が問題にならない場合がある。

※「吉」と「土+口」は,一般には同じように用いることができるが,戸籍等では,使い分けが行われている。

(2) 方向に関する例

漢字の点画の方向にいろいろな書き表し方があるものとして,以下ような例が挙げられる。ここに挙げる点画の方向の違いは,極端な場合を除いて,字体の判別の上で問題にならない。

ア 横画の中央上部にある点画の方向にいろいろな書き方があるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
一	など
一	など
一	など
一	など

言	など
佳	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
一	暗	衣	位	意	育	液	億	音	顔	旗	泣	京	境	鏡	競	景
	激	交	校	航	高	効	刻	座	濟	産	市	姉	施	辞	主	就
	住	商	章	障	織	新	親	製	接	装	族	卒	率	対	淹	畜
	注	柱	停	適	敵	統	童	肺	倍	部	文	変	方	放	訪	亡
	忘	防	望	夜	遊	裏	立	流	旅	六	など					
宀	安	案	院	宇	演	家	嫁	害	額	割	完	官	寒	管	館	寄
	客	宮	穴	憲	察	字	室	実	寂	守	宗	宿	縮	宣	宅	宙
	貯	定	富	宝	密	容	など									
空	究	空	窓	突	など											
广	応	拡	庫	広	康	鉦	序	床	席	庁	底	庭	店	度	糖	府
																など
疒	痛	病	疲	など												
良	飲	館	飼	食	飯	養	良	朗	など							
ネ	視	社	祝	神	祖	福	礼	など								
ネ	初	複	補	など												
佳	確	観	権	雑	集	準	進	推	難	奮	曜	など				
言	課	記	議	許	訓	計	警	謙	言	語	誤	護	講	詞	試	詩
	誌	識	謝	諸	信	誠	設	説	談	調	討	読	認	評	訪	訳
	論	話	など													
倉	倉	創	など													

イ 左にはらうように書くことも横画のように書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例														
風	など														
比	など														
印	など														
奏	など														

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
風	風 嵐 など
夭	添 橋 笑 など
系	系 係 など
属	属 嘱 など
匕	化 花 貨 疑 死 指 老 能 態 北 など
比	階 混 比 批 陞 など
考	考 拷 など
卬	仰 迎 抑 など
奏	奏 など

ウ 点の方向にいろいろな書き方があるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
紙	など
灬	など
舟	など
羽	など
雨	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
紙	絵 紀 級 給 経 結 絹 紅 終 細 紙 縦 縮 純 織 績
灬	絶 線 組 総 続 統 納 編 綿 約 緑 練 など
舟	魚 漁 鯨 黒 熟 照 蒸 鮮 然 鳥 点 熱 無 鳴 燃 駮
羽	馬 駅 など
雨	航 船 など
火	均 弱 習 曜 翌 など
巾	雨 雲 雪 電 など
州	炎 灰 災 秋 焼 炭 灯 燃 畑 など
飛	快 慣 情 性 など
	州 酬 など
	飛 など

エ 横画又は縦画で書くことも、点で書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
年		など
年		など
戸		など
今		など
班		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
年	年 など	
年	偉 違 傑 隣 など	
戸	肩 戸 所 編 など	
式	武 式 など	
今	含 今 念 令 冷 など	
覧	覧 監 鑑 など	
班	帰 班 など	

オ 縦画を垂直に書くことも、斜めに書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
南		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
南	植 真 値 直 徳 南 など	

(3) つけるか、はなすかに関する例

漢字の点画をつけるか、はなすかについていろいろな書き表し方があるものとして、以下ような例が挙げられる。ここに挙げる点画のつけ方、はなし方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 横画と、その中央上部の点画とを、つけて書くことも、はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
一	など
一	など
广	など
ネ	など
佳	など
言	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例															
一	暗	衣	位	意	育	液	億	音	顔	旗	泣	京	境	鏡	競	景
	激	交	校	航	高	効	刻	座	濟	産	市	姉	施	辞	主	就
	住	商	章	障	織	新	親	製	接	装	族	卒	率	対	淹	畜
	注	柱	停	適	敵	統	童	肺	倍	部	文	変	方	放	訪	亡
	忘	防	望	夜	遊	裏	立	流	旅	六	など					
宀	安	案	院	宇	演	家	嫁	害	額	割	完	官	寒	管	館	寄
	客	宮	穴	憲	察	字	室	実	寂	守	宗	宿	縮	宣	宅	宙
	貯	定	富	宝	密	容	など									
空	究	空	窓	突	など											
广	応	扌	庫	広	康	鉉	序	床	席	庁	底	庭	店	度	糖	府
疒	痛	病	など													
良	飲	館	飼	食	飯	養	良	朗	など							
ネ	視	社	祝	神	祖	福	礼	など								
ネ	初	複	補	など												
佳	確	観	権	雑	集	準	進	推	難	奮	曜	など				
言	課	記	議	許	訓	計	警	謙	言	語	誤	護	講	詞	試	詩
	誌	識	謝	諸	信	誠	設	説	談	調	討	読	認	評	訪	訳
	論	話	など													
倉	倉	創	など													
	鳥	島	など													

イ ロ、門などの内部で、横画の終筆を縦画につけて書くことも、はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
日	など
月	など
田	など
雪	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
日	意 易 億 音 温 白 楽 幹 館 眼 旧 郷 鏡 銀 景 激 限 原 源 厚 皇 根 混 最 昨 旨 指 飼 日 時 識 者 借 習 宿 縮 春 書 暑 署 諸 昭 唱 傷 照 障 場 食 織 職 星 昔 節 泉 線 早 創 層 増 退 題 担 暖 著 鳥 腸 潮 提 的 都 島 湯 得 届 晩 百 復 腹 複 墓 暮 暴 幕 娘 明 盟 鳴 綿 模 薬 陽 養 良 量 朗 など
目	遺 員 夏 貨 賀 貝 覚 額 看 慣 観 眼 顔 願 基 規 期 貴 旗 具 目 県 現 査 財 算 賛 視 資 自 質 射 謝 首 順 助 賞 植 親 省 責 積 績 祖 組 想 則 息 側 測 損 貸 値 置 貯 頂 直 賃 相 題 頭 道 導 敗 買 箱 費 鼻 貧 負 貿 面 目 優 預 覧 領 類 など
耳	蔽 耳 取 聖 など
門	開 閣 間 簡 聞 閉 門 間 など
酉	酸 酒 尊 配 など
月	胃 育 期 胸 筋 月 肩 絹 骨 散 消 勝 情 青 清 晴 精 静 前 臓 態 朝 潮 能 脳 背 肺 肥 服 腹 望 脈 明 盟 輪 有 朗 など
齊	濟 剂 齐 など
田	胃 異 界 魚 漁 細 思 層 増 男 町 田 畑 番 鼻 富 副 福 奮 勇 略 留 など
由	演 横 画 黄 専 笛 宙 届 博 由 油 など
甲	押 果 課 戦 単 電 など
申	申 神 など
車	運 軍 庫 車 転 輸 輪 連 など
東	東 練 など

更	更 便 硬 など
里	黒 童 野 里 理 裏 量 など
重	重 動 働 種 など
曲	曲 典 豊 農 など
冉	構 再 など
冊	編 輪 論 など
用	備 用 など
甫	補 など
甬	通 痛 など
当	帰 急 雪 当 婦 録 など

※「日」の「 」及び「月」の「 」の字形について、辞書等によっては、いわゆる旧字体として扱われている場合がある。

※「西」は、口の内部の横画の始筆も終筆も、縦画とはなして書くことがある。

ウ 構成要素となる「木」「米」など、つけて書くことも、「ホ」のようにはなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
楽 迷		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例													
条 迷	案	栄	果	課	楽	業	困	菜	殺	雑	集	条	深	新
	操	探	築	保	菓	葉	など							
	齒	数	断	迷	類	など								

エ 右はらの始筆をつけてはらって書くことも、はなしてとめるように書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
契 央		など
		など

矢	など
吞	など
季	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
契	因 恩 寄 器 契 実 春 然 燃 美 奮 墓 暮 棒 模 など
夫	漢 難 賛 など
央	英 映 央 など
夊	快 決 など
矢	医 疑 候 族 短 知 矢 など
吞	橋 笑 添 など
陰	陰 検 験 など
季	委 季 など
益	益 など

オ 又の1, 2画目, 文の3, 4画目など, つけて書くことも, はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
又	など
文	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
又	技 径 経 軽 護 穀 祭 最 際 殺 察 支 寂 取 受 授 収 段 努 度 投 波 破 反 坂 板 版 皮 服 返 報 又
	役 友 など
文	文 対 斉 済 など

カ 縦画を，それを挟む上下の横画に，つけて書くことも，はなして書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
立	など
無	など
垂	など

◇ 上記を含め，同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
立	暗 位 億 音 意 顔 泣 競 鏡 辞 識 章 障 職 織 新
無	親 童 倍 部 翌 立 など
垂	無 舞 など 垂 乗 郵 など

キ その他，つけて書くことも，はなして書くこともあるもの

𠂔	など
疒	など
空	など
石	など

◇ 上記を含め，同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
𠂔	登 発 など
疒	痛 病 など
究	空 究 窓 など
石	右 石 名 各 など
下	下 峠 など
共	異 遺 員 演 貨 賀 額 慣 願 黄 貴 旗 共 供 具 誤 賛 資 質 順 賞 真 積 績 選 則 測 損 貸 頂 賃 買 費 貧 負 兵 貿 預 領 類 など
圭	街 掛 など
その他	夏 歌 革 極 湿 焼 吹 町 溺 麦 否 備 貧 不 武 奔 冥 夢 など

(4) はらうか、とめるかに関する例

漢字の点画をはらうか、とめるかについて、いろいろな書き表し方があるものとして、以下ような例が挙げられる。ここに挙げるような点画のはらい方、とめ方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア はらって書くこともとめて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
公	など
因	など
栄	など
文	など
糸	など
ト	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
八	益 沿 公 松 船 総 貧 分 など
今	今 念 など
人	飲 歌 機 欠 姿 資 次 欲 食 全 答 輪 など
衣	装 表 俵 旅 裁 など
艮	眼 銀 限 根 食 養 など
園	園 遠 など
因	因 恩 寄 器 契 実 然 燃 美 奮 墓 暮 模 類 など
夫	漢 難 賛 など
夭	橋 奏 笑 など
矢	医 候 族 疑 短 知 など
失	失 鉄 など
夊	春 奉 棒 奏 など
夊	快 決 など
央	英 映 央 など
火	灰 炭 談 焼 圩 蟬 など
尺	駅 など
陰	陰 検 験 など

木	案	榮	果	課	樂	株	休	業	困	查	採	菜	策	朱	集	床
	条	乘	深	森	染	巢	操	体	探	築	保	木	本	藥	葉	来
	林	歴	桜	横	械	机	機	橋	極	検	権	校	耕	構	根	材
	札	殺	雑	刺	枝	樹	松	植	新	親	相	想	村	柱	梅	箱
	板	標	棒	枚	横	様	など									
米	齒	番	米	迷	粉	数	精	断	糖	料	類	奥	など			
禾	委	季	番	私	税	積	秒	和	など							
束	速	整	など													
豕	隊	家	劇	など												
水	求	球	様	康	承	蒸	救	など								
水	救	教	敬	警	激	故	後	修	数	整	敵	敗	枚	など		
又	技	径	経	軽	護	穀	祭	最	際	殺	察	支	寂	取	受	授
	収	段	努	度	投	波	破	反	坂	板	版	皮	服	返	報	役
	友	など														
各	各	格	閣	客	条	冬	略	路	など							
及	級	吸	など													
ト	外	など														
比	階	混	比	批	陸	など										
糸	絵	紀	級	給	系	係	経	結	潔	絹	紅	終	細	糸	紙	縦
	縮	純	織	素	績	絶	線	組	総	続	孫	統	納	編	綿	約
	緑	練	など													
小	願	景	京	県	原	源	砂	寂	小	少	省	歩	など			
示	禁	祭	際	票	標	など										
示	茶	余	など													
述	述	術	など													
父	効	校	父	など												
共	異	供	港	選	暴	など										

※ 「木」「大」など、右はらいをとめて書く場合には、始筆がはなれることが多い。（（3）エ 参照）

イ 横画を右上にはらって書くことも、まっすぐとめて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
塩 始 耳		など
		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
坂	域 塩 街 境 均 城 場 勢 増 地 熱 坂 など
功	功 式 など
球	球 現 班 など
武	政 疎 武 路 など
野	野 など
動	動 働 など
銀	鏡 銀 鉦 鋼 銭 鉄 銅 録 など
頭	頭 樹 など
郵	郵 など
勤	勤 など
好	好 数 始 姉 妹 など
孫	熟 孫 乳 など
段	段 など
船	航 船 など
邦	邦 など
北	北 など
非	罪 俳 非 悲 など
耳	耳 など
以	以 似 など
切	切 など
望	望 など
改	改 選 など

ウ 左部分の縦方向の画をとめて書くことも、はらって書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
骨	など
周	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
月	胃 育 期 胸 筋 肩 絹 骨 散 消 勝 情 青 清 晴 精 静 前 臓 朝 潮 能 脳 背 肺 肥 服 腹 望 脈 明 盟 輸 有 朗 など

井	圀	耕	など
开	形	型	研 など
用	通	痛	用 など
角	解	角	など
周	周	週	など

エ 最終画又は構成部分の最終画となる縦画をとめて書くことも、まっすぐはらって（ぬいて）書くこともあるもの

構成要素の例	左の構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
十	など
巾	など
卩	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
十	華 革 干 幹 岸 牛 叫 許 計 件 午 幸 十 準 早 障 申 神 針 単 早 草 率 卒 単 中 仲 忠 年 半 評 平 など
巾	希 帛 市 姉 師 常 掃 帚 肺 布 婦 幕 綿 など
冂	命 印 節 など
川	訓 州 川 など
卩	算 鼻 など
介	郷 郡 都 部 邦 郵 など
斤	界 など
牛	近 所 新 折 断 など
戒	降 偉 瞬 など
丰	械 戒 など
羊	扌 邦 峰 など
弗	群 達 羊 洋 など
律	費 沸 など
車	建 健 筆 など
南	運 揮 軍 庫 連 など
	南 など

(5) はねるか、とめるかに関する例

漢字の点画の終筆をはねるか、とめるかについて、いろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げるような点画のはね方、とめ方の違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 縦画の最後をはねて書くことも、とめて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
木	など
秋	など
牧	など
糸	など
少	など
園	など
門	など
示	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
木	案 栄 桜 横 果 課 械 楽 株 机 機 休 橋 業 極 検 権 校 耕 構 困 根 查 採 菜 材 策 札 殺 雑 刺 枝 朱 樹 集 床 松 条 乗 植 深 森 新 親 染 相 巢 想 操 村 体 探 築 柱 梅 箱 板 標 保 棒 木 本 枚 模 菓 葉 様 来 林 歴 など
未	妹 未 味 など
末	末 など
耕	耕 耗 など
移	委 移 科 季 穀 私 種 秋 称 税 積 程 秘 秒 利 和 など
米	奥 齒 数 精 断 糖 米 粉 迷 料 類 など
束	整 束 速 など
東	東 練 など
牧	特 物 牧 など
丩	将 状 装 など

糸	絵	紀	級	給	系	係	経	結	潔	絹	紅	終	細	糸	紙	縦
	縮	純	織	素	績	絶	線	組	総	続	孫	統	納	編	綿	約
	緑	練	など													
示	祭	示	察	票	際	禁	宗	など								
木	茶	など														
述	述	術	など													
不	否	不	など													
弔	第	弟	など													
禾	衆	など														
飛	飛	など														
園	園	遠	など													
厶	派	脈	旅	など												
勻	局	旬	的	包	約	均	胸	敬	警	など						
小	小	少	京	原	病	県	省	願	景	余	砂	源	就	除	など	
才	才	材	財	閉	など											
水氷	永	泳	求	球	救	康	承	蒸	水	氷	暴	録	など			
用	備	用	など													
行	衛	街	行	術	など											
角	解	角	など													
甫	補	浦	など													
身	射	謝	身	など												
門	門	間	聞	開	問	関	閣	閉	簡	など						
冂	過	など														

イ 縦に下ろして右に曲げる点画（し）の終筆を，とめて書くことも，はねて書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
七	など
己	など
儿	など
空	など

◇ 上記を含め，同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
七	化 花 貨 傾 疑 死 指 老 旨 態 能 背 陞 北 など

己	改	卷	記	起	紀	港	配	包	選	など
尤	就	稽	蹴	など						
甩	電	俺	など							
几	机	航	穀	殺	処	設	段	投	盤	役 など
九	究	雑	など							
ル	完	見	規	境	元	現	四	西	勢	熱 陸 など
七	七	切	など							
亡	亡	忘	望	など						
空	空	究	窓	など						
酉	酒	尊	配	など						

(6) その他

そのほか、漢字の点画について、いろいろな書き表し方があるものとして、以下のような例が挙げられる。ここに挙げるような違いは、極端な場合を除いて、字体の判別の上で問題にならない。

ア 点画が交わるように書くことも、交わらないように書くこともあるもの

構成要素の例	左の構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
女	など
ト	など
才	など
耳	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
女	安 案 委 桜 好 妻 始 姉 姿 女 数 努 婦 妹 要 など
ト	外 掛 訃 など
才	材 財 閉 など
耳	巖 最 耳 取 趣 職 聖 聞 など
匕	化 花 貨 死 など
又	祭 際 察 など
リ	収 など
母	貫 など

身	謝 射 身 など
辰	農 震 振 など
非	罪 非 悲 など
夜	夜 など
長	長 帳 張 など

イ 縦画を曲げて書くことも、まっすぐ書くこともあるもの

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
于 争 矛		など
		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例	
于	宇 芋 など	
争	争 淨 など	
矛	矛 務 など	

※ 「子」「手」「了」など、印刷文字では縦画を直線で表すが、手書きの際には、曲線を使う方が一般的なものがある。そのようなものを印刷文字に従って直線で書いたものも誤りとは言えない。（３（４）参照）

ウ 点画の接触の位置に関するもの

構成要素の例	左の構成要素を持つ漢字の書き表し方の例	
尺 氷 白 就 備		など
		など
		など
		など
		など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
尺	駅 尺 訳 など
大	参 奮 奪 添 奔 など
天	蚕 など
夬	春 奏 など
水 氷	永 泳 求 球 救 康 承 蒸 水 氷 暴 録 など
衣	表 袂 裏 展 など
長	長 帳 張 など
辰	農 震 振 など
白	樂 皇 白 百 など
向	向 など
自	師 など
久	久 など
益	界 養 など
夕	夕 多 など
石	確 岩 砂 磁 石 破 など
尤	就 蹴 など
丘	丘 岳 など
禾	衆 など
備	備 など

エ その他

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の書き表し方の例
令 叱	など

◇ 上記を含め、同様に考えることができる漢字の例

構成要素の例	左のような構成要素を持つ漢字の例
令 叱	領 令 冷 など 叱

5 筆写の楷書字形と印刷文字字形の違いが、字体の違いに及ぶもの

現行の常用漢字表においては、従前のとおり「印刷文字における現代の通用字体」が示され、削除した5字を除いて、昭和56年の常用漢字表の掲げた通用字体が全てそのまま継承された。

しかし、新たに常用漢字表に追加した196字については、社会における特に印刷文字の字体の安定性を損なうことがないように、当用漢字字体表及び昭和56年の常用漢字表に準じた字体の整理を行うことはせず、原則として、当該の字種における一般の書籍での最も使用頻度の高い字体を採用することとした。その結果、平成12年の国語審議会答申「表外漢字字体表」が示した「印刷標準字体」と「人名用漢字」の字体を通用字体として掲げることとなった。（「曾」「瘦」「麵」については、印刷標準字体として「曾」「瘦」「麵」が掲出されていたが、常用漢字表では生活漢字としての側面を重視し、「簡易慣用字体」とされていた字体を採用した。）

このことにより、昭和56年から常用漢字表に採用されていた漢字の字体との間で、「道／邇」「飲／餅」「臭／嗅」「歩／捗」「幣／蔽」などのように、同じ構成要素を持ちながら、字体上の差異があるものが生じた。

そして、こうした字体上の差異は、印刷文字と手書き文字との間にも影響し、印刷文字と手書き文字の習慣による字形との間の相違が、字体の違いにまで及ぶ場合が生じることとなった。その手当てとして、「(付) 字体についての解説」において、これらの漢字を実際に手書きする際の参考となるよう、具体例が示されているところである。

以下に挙げるものは、常用漢字表の採用した通用字体と手書き文字におけるそれぞれの習慣の相違に基づく表し方の差が、字体（文字の骨組み）の違いに及ぶものである。左は筆写の楷書の習慣による字形の例、右は印刷文字である明朝体の字形に倣って書いたものであるが、筆写の楷書ではどちらの字形で書いても差し支えない。なお、「筆写の楷書の習慣による例」に挙げたもののうちには、現代において、実際に広く用いられているとは言い難いものもあり、明朝体に倣った字形の方が手書きする場合の字形としても一般的な場合がある。

(1) 方向に関する例

該当字種	筆写の楷書の習慣による例	明朝体の字形に倣った手書きの例
茨	など	など
恣	など	など
蔑	など	など
煎	など	など

嘲	など	など
溺	など	など
淫	など	など
蔽	など	など

(2) 点画の簡略化に関する例

該当字種	筆写の楷書の習慣による例	明朝体の字形に倣った手書きの例
嗅	など	など
賭	など	など
箸	など	など
餌	など	など
餅	など	など
遡	など	など
遜	など	など
謎	など	など
葛	など	など
僅	など	など
箋	など	など
填	など	など
頰	など	など

※「遡」「遜」「謎」について、明朝体の字形に倣った手書きの例を示していないのは、常用漢字表が「𠂔」も筆写では「𠂔」と同様に「𠂔」と書く」としていることに基づいたものである。日常生活における漢字使用においては、「𠂔」も「𠂔」も、手書き字形としては同じ「𠂔」の形で書くことが一般的である、という認識を社会全般に普及していく必要がある。

ただし、歴史的にも、手書きにおける2点のしんにゅうの例は少なからず存在し、現在においても、例えば、戸籍行政などでは、「辻」と「辻」が別字とされ、

手書きでの記入に当たっても書き分けられるように、主に人名や固有名詞等に関わる場合など、「し」（「」）と「し」（「・」）の使い分けが行われることがある。2点しんにゅうの漢字を「・」のように書いたものを誤りとすべきではない。

（3）その他

該当字種	筆写の楷書の習慣による例	明朝体の字形に倣った手書きの例
彙	など	など
剥	など	など
詮	など	など
喩	など	など
牙	など	など
惧	など	など
稽	など	など
叱	など	など
抄	など	など